

量を加えても MOE が大きく変化することはないと考えられる。従って、本物質の経口ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられる。

吸入ばく露については、無毒性量等が設定できず、ばく露濃度も把握されていないため、健康リスクの判定はできなかった。なお、本物質の大気中での半減期は 2.9～29 時間と推定されており、大気に排出されてもほとんど大気には分配されないと予測されている。このため、本物質の一般環境大気の吸入ばく露による健康リスクの評価に向けて吸入ばく露の知見収集等を行う必要性は低いと考えられる。

有害性の知見				ばく露評価		リスクの判定			評価			
ばく露経路	リスク評価の指標		動物	影響評価指標 (エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度						
経口	無毒性量等	0.13	mg/kg/day	ラット	副腎の重量減少と束状帯細胞の萎縮	飲料水	—	μg/kg/day	MOE	—	×	○
						公共用水域・淡水	0.00068	μg/kg/day	MOE	19,000	○	
吸入	無毒性量等	—	mg/m ³	—	—	一般環境大気	—	μg/m ³	MOE	—	×	(○)
						室内空気	—	μg/m ³	MOE	—	×	

4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 250 μg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC₅₀ 310 μg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 2.5 μg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 370 μg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 9 μg/L、魚類ではメダカ *O. latipes* の成長阻害及び孵化後の死亡における 40 日間 NOEC 33.8 μg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 10 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.9 μg/L が得られた。本物質の PNEC には、甲殻類の慢性毒性値から得られた 0.9 μg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 0.02、海水域では 0.002 未満となるため、現時点では作業の必要はないと考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (μg/L)	ばく露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (μg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	10	0.9	淡水	0.017	0.02	○	○
					海水	<0.0021	<0.002		

5. 結論

	結論		判定
健康リスク	経口ばく露	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
	吸入ばく露	リスクの判定はできないが、情報収集を行う必要性は低いと考えられると考えられる。	(○)
生態リスク	現時点では作業の必要はないと考えられる。		○

【リスクの判定】 ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない
 (○)：情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(—)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す